

平成26年度

食育・健康づくりに関する

市民アンケート調査報告書

平成27年2月

新潟市

第1章 調査概要

1 調査目的

「新潟市食育推進計画（H24～28）」、「新潟市健康づくり推進基本計画（H26～30）」および「新潟市歯科保健計画（H26～30）」の中間評価のために、市民の食育・健康づくりに関する意識や実践状況等を把握するとともに、今後の施策検討の基礎資料とすることを目的とする。

2 調査項目

- (1) 体格（BMI の状況）
- (2) 「食育」に対する意識
- (3) 日ごろの食生活の状況
- (4) 「食の安全」について
- (5) 健康づくりに対する意識や状況
- (6) 農林漁業体験について
- (7) 食育や健康づくりに関する情報やサービスの利用状況等
- (8) 食育や健康づくりに関しての意見・提案

3 調査の設計

- (1) 調査地域 新潟市
- (2) 調査対象 満20歳以上の男女個人
- (3) 標本数 3,000人
- (4) 抽出方法 確立比例系統抽出法
- (5) 調査方法 郵送法（調査票の配布・回収とも）
- (6) 調査期間 平成26年11月10日～12月5日

4 回収結果

有効回収数（率） 1,543人（51.4%）

【参考】性別、年齢別、居住地区別回収結果

(1) 性別

調査対象者	標本数	回収数	回収率
男性	1,436人	670人	46.7%
女性	1,564人	829人	53.0%
性別不明		44人	

(2) 年齢別

調査対象者	標本数	回収数	回収率
20～29歳	373人	125人	33.5%
30～39歳	472人	198人	41.9%
40～49歳	485人	212人	43.7%
50～59歳	444人	254人	57.2%
60～69歳	549人	333人	60.7%
70歳以上	677人	411人	60.7%
年齢不明		10人	

(2) 居住地区別

調査対象者	標本数	回収数	回収率
北区	284人	150人	52.8%
東区	516人	253人	49.0%
中央区	663人	354人	53.4%
江南区	257人	137人	53.3%
秋葉区	291人	141人	48.5%
南区	175人	97人	55.4%
西区	587人	305人	52.0%
西蒲区	227人	98人	43.2%
居住地区不明		8人	

5 集計結果の数字の見方

- (1) 結果は百分率(%)で表示し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した結果、個々の比率が合計100%にならないことがある。
また、複数回答(2つ以上の回答)では、合計が100%を超える場合がある。
- (2) 図表中の「n (number of cases の略)」は、質問に対する回答者の総数(該当者質問では該当者数)を示し、回答者の比率(%)を算出するための基数である。

4 「食の安全」について

(1) 食の安全に対する関心度

問20 あなたは、食の安全に関心がありますか。(○は1つだけ)

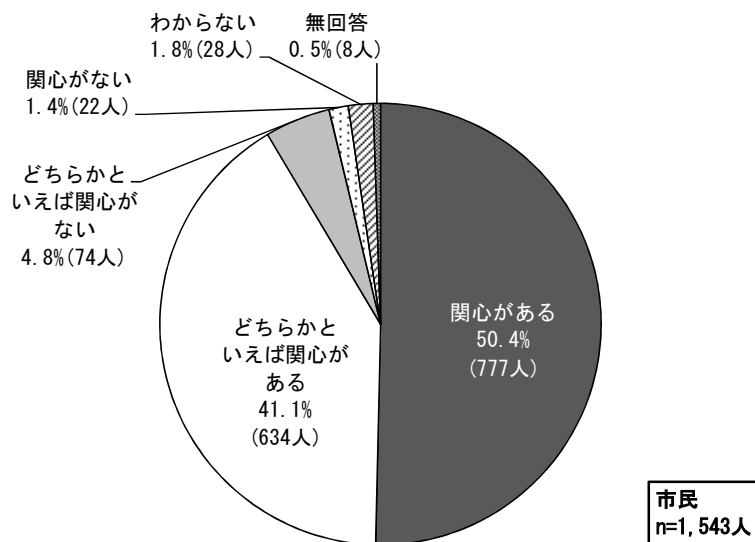
9割強が食の安全に関心があると回答

【全体結果】

「関心がある」(50.4%)、「どちらかといえば関心がある」(41.1%)を合わせた、関心がある人の割合は9割強(91.5%)となっている。

一方、「関心がない」(1.4%)、「どちらかといえば関心がない」(4.8%)を合わせた、関心がない人の割合は、1割弱(6.2%)となっている。

図 19.1 食の安全に対する関心度



【性別・年齢別】

「関心がある」「どちらかといえば関心がある」を合わせた割合は、30歳代から60歳代では9割を超え、20歳代と70歳以上でも8割を超えている。

性別では、各年代とも、女性の方が「関心がある」「どちらかといえば関心がある」を合わせた割合が高くなっている。

図 19.2 食の安全に対する関心度（年齢別・全体）

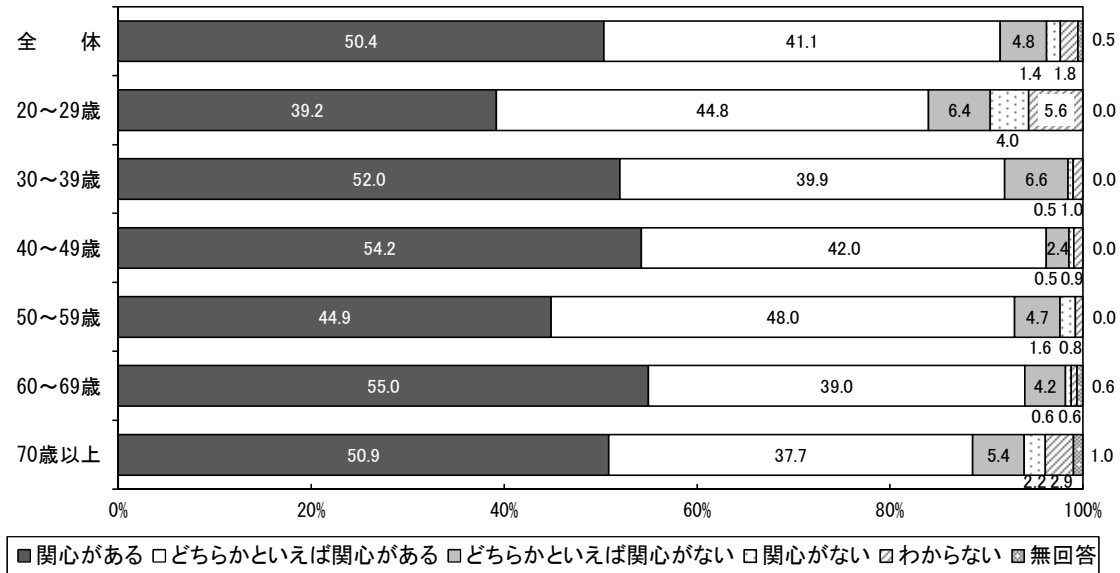
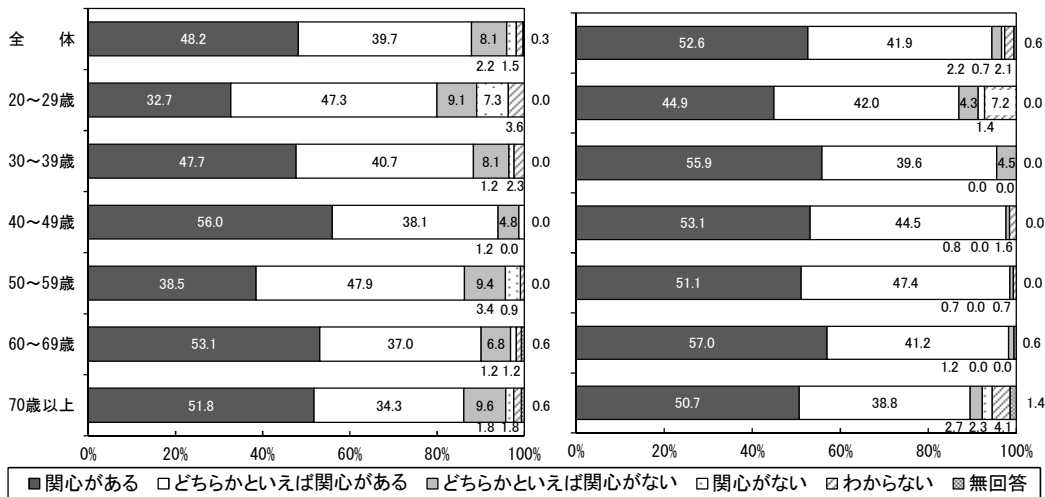


図 19.3 食の安全に対する関心度

(年齢別・男性)

(年齢別・女性)



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,543	125	198	212	254	333	411	10
男性	670	55	86	84	117	162	166	0
女性	829	69	111	128	135	165	219	2

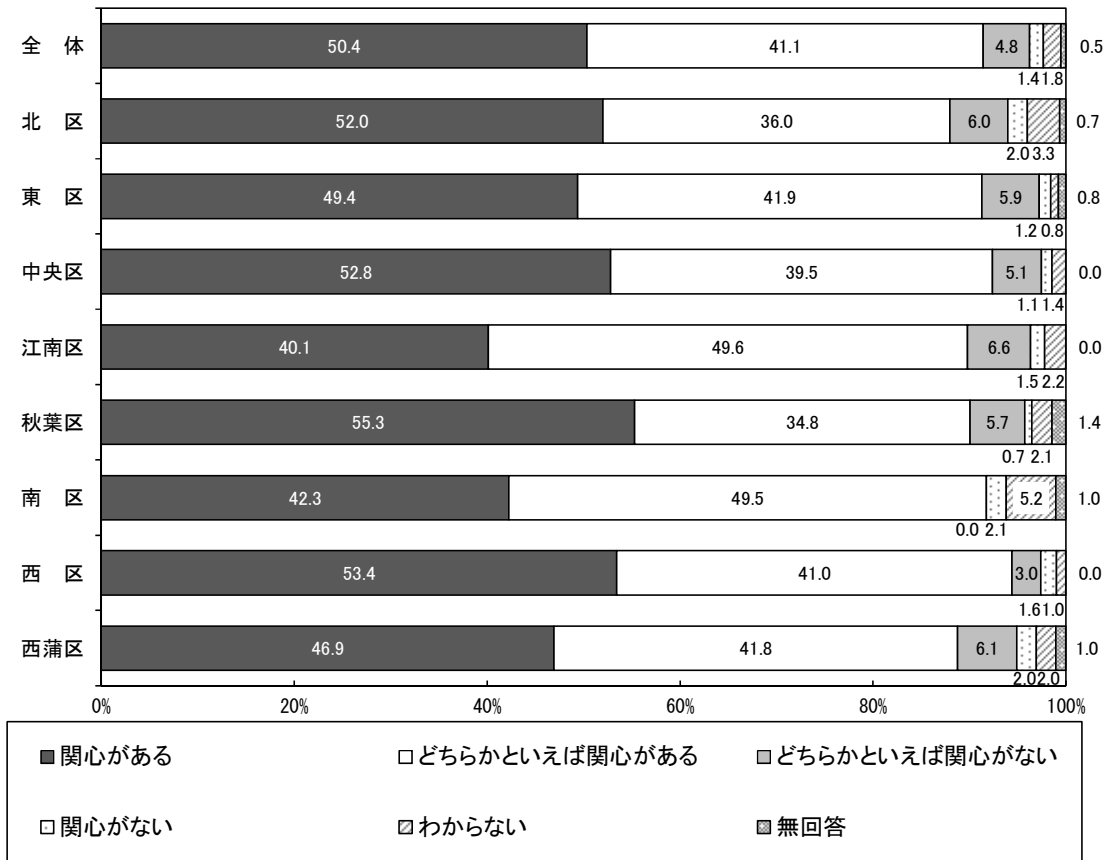
(人)

※ 性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「関心がある」「どちらかといえば関心がある」を合わせた割合は、西区（94.4%）で最も高くなっている。

図 19.4 食の安全に対する関心度（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,543	150	253	354	137	141	97	305	98	8

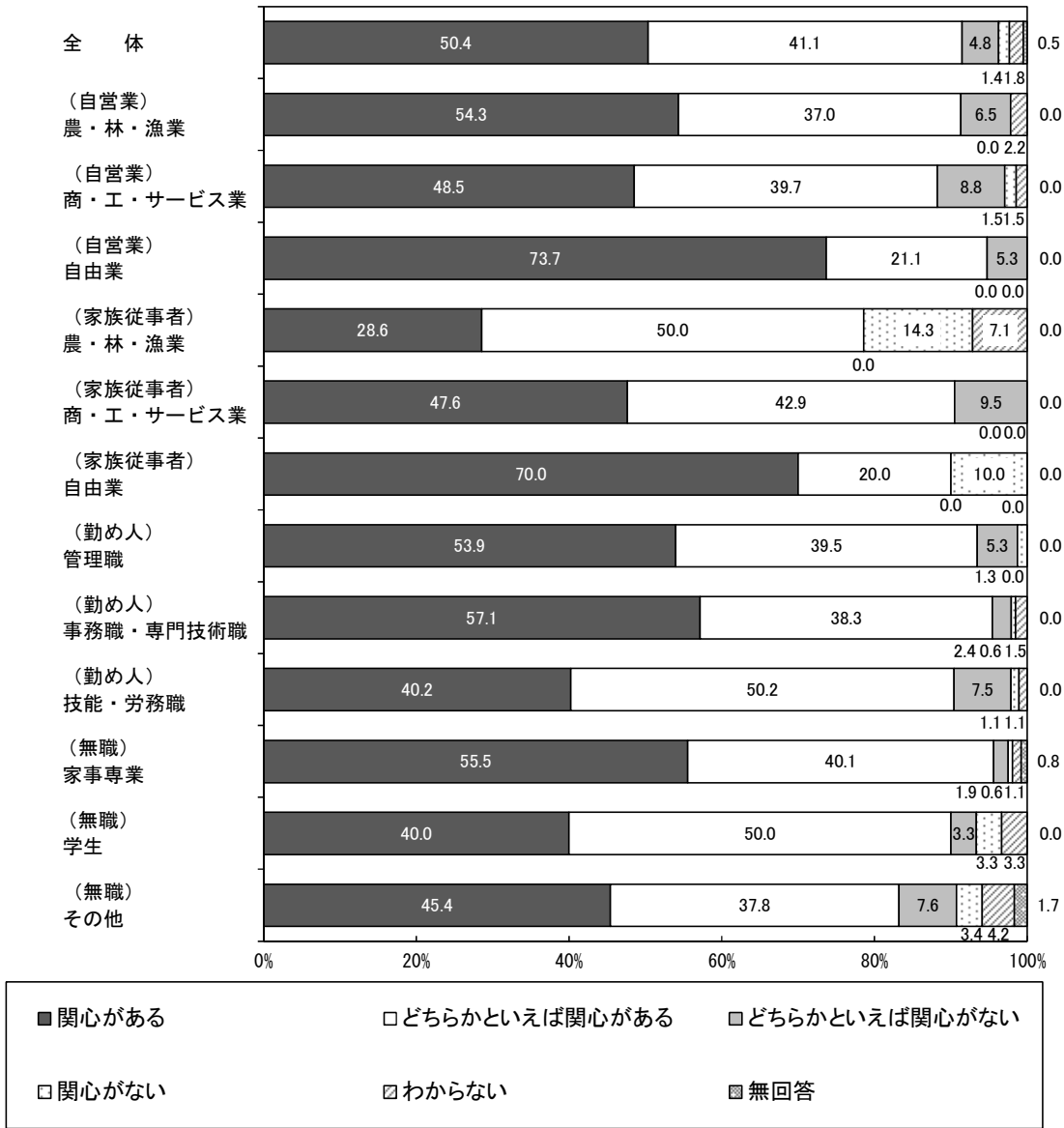
(人)

※ 地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 19.5 食の安全に対する関心度（職業別）



全 体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,543	46	68	19	14	21	10

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
76	329	281	362	30	238	49

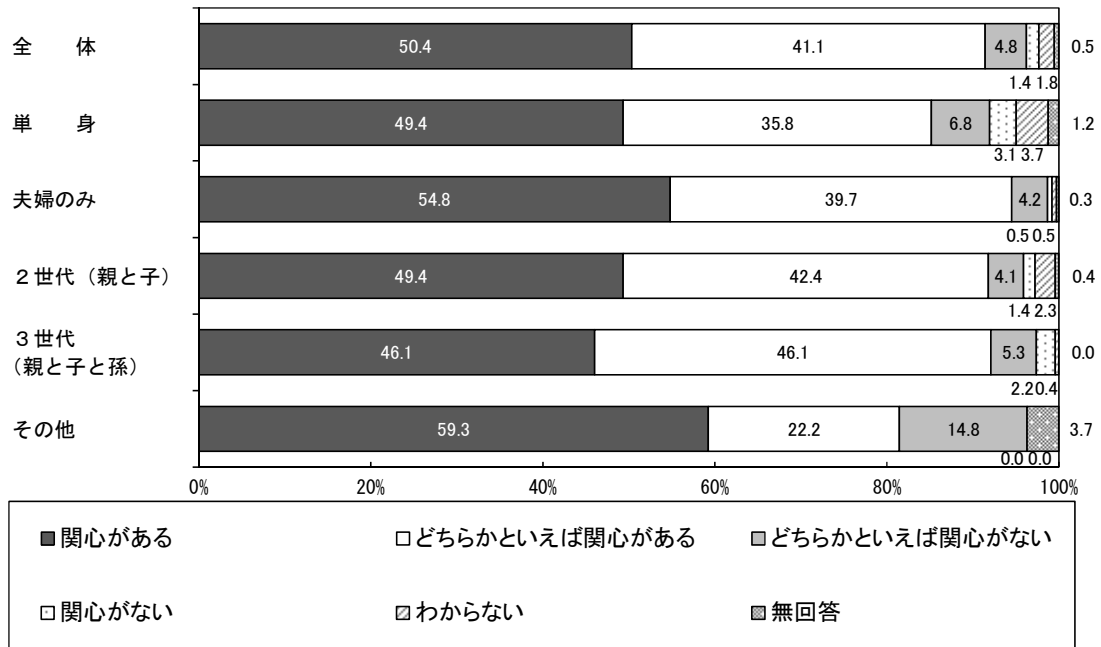
(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「関心がある」「どちらかといえば関心がある」を合わせた割合は、夫婦のみ（94.5%）で最も高くなっている。

図 19.6 食の安全に対する関心度（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代（親と子）	3世代（親と子と孫）	その他	無回答
1,543	162	383	731	228	27	12

(人)

※ 無回答者のグラフは省略した

(2) 食の安全に関する知識を持っている程度

「食の安全に関する知識」の例

- ◆ 食品表示の見方について
(消費期限や賞味期限、保存料などの食品添加物、遺伝子組み換え食品、食物アレルギーなど)
 - ◆ 食中毒の予防方法について
 - ◆ 輸入食品について
 - ◆ 健康食品について
- その他、農薬使用の実態や鳥インフルエンザに関する知識など

問21 あなたは、食の安全に関してどの程度知識を持っていると思いますか。(○は1つだけ)

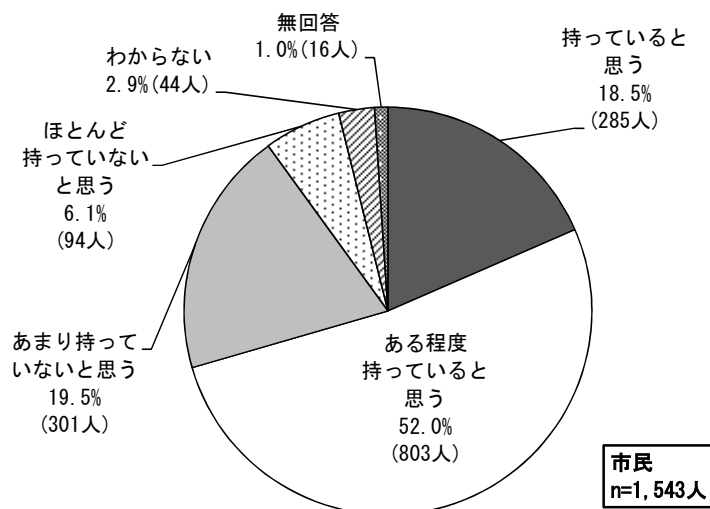
約7割が知識を持っていると回答

【全体結果】

「持っていると思う」(18.5%)、「ある程度持っていると思う」(52.0%)と回答した人を合わせた、知識を持っている人の割合は約7割(70.5%)となっている。

一方、「あまり持っていないと思う」(19.5%)、「ほとんど持っていないと思う」(6.1%)と回答した人を合わせた割合は3割弱(25.6%)となっている。

図 20.1 食の安全に関する知識を持っている程度



【性別・年齢別】

「持っていると思う」「ある程度持っていると思う」を合わせた割合は、50歳代以上で高く7割を超えている。一方、「あまり持っていないと思う」「ほとんど持っていないと思う」を合わせた割合は、20歳代(42.4%)で最も高く4割を超え、30歳代(38.4%)と40歳代(36.3%)も3割を超えている。

性別では、「持っていると思う」「ある程度持っていると思う」を合わせた割合は、60歳代以下では女性の方が高く、70歳以上では男性の方が高くなっている。

図 20.2 食の安全に関する知識を持っている程度（年齢別・全体）

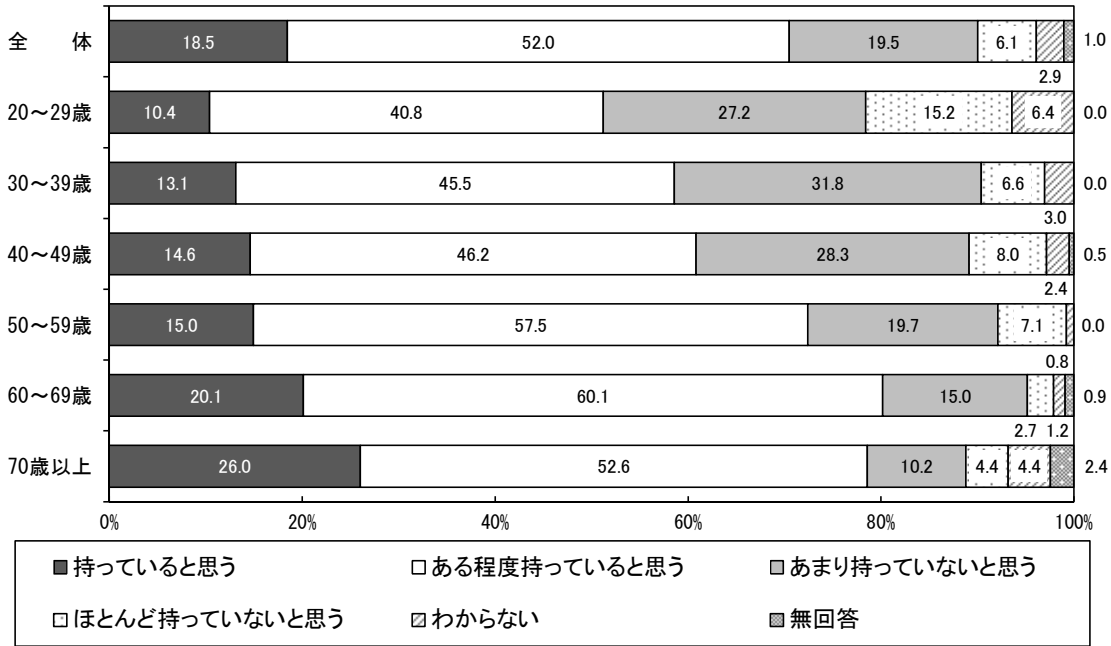
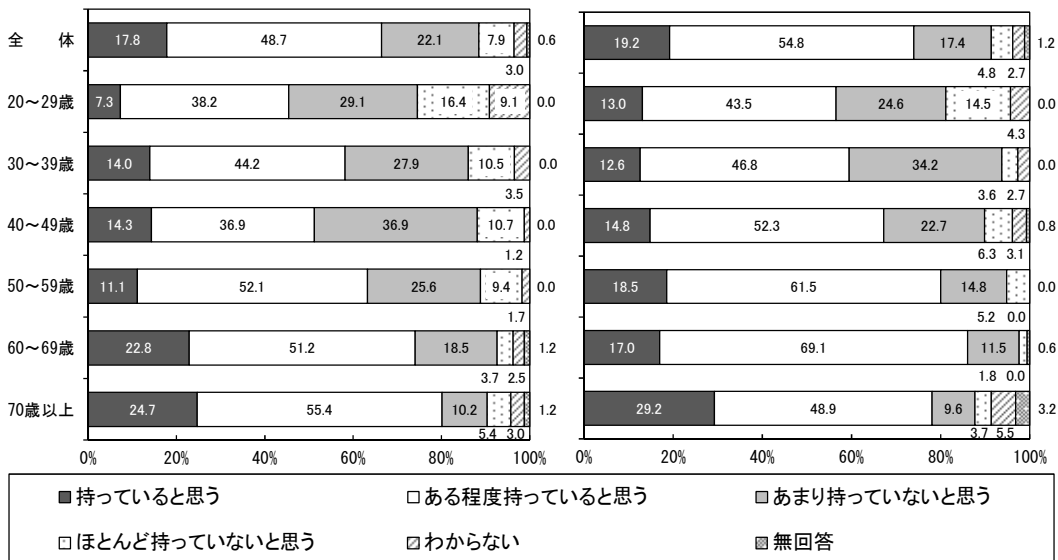


図 24.3 食の安全に関する知識を持っている程度
(年齢別・男性) (年齢別・女性)



	計	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,543	125	198	212	254	333	411	10
男性	670	55	86	84	117	162	166	0
女性	829	69	111	128	135	165	219	2

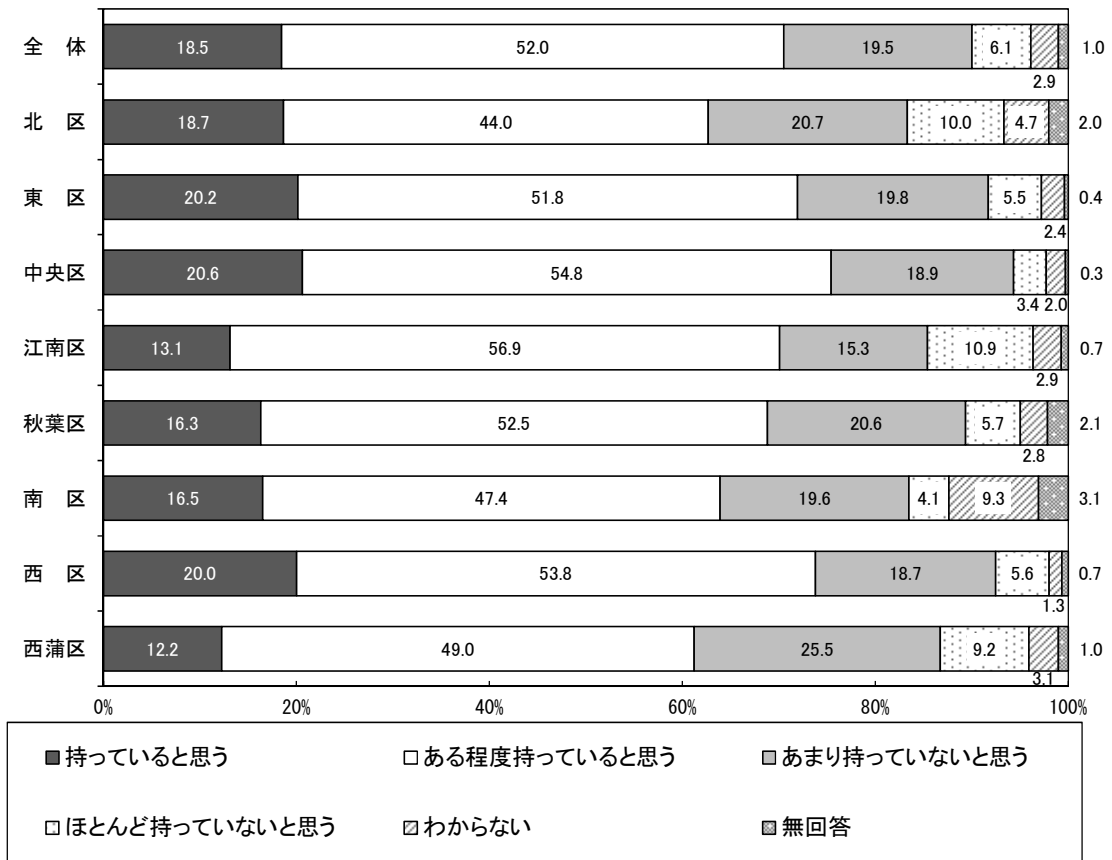
(人)

※ 性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「持っていると思う」「ある程度持っていると思う」を合わせた割合は、中央区（75.4%）、西区（73.8%）、東区（72.0%）で高くなっている。

図 24.4 食の安全に関する知識を持っている程度（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,543	150	253	354	137	141	97	305	98	8

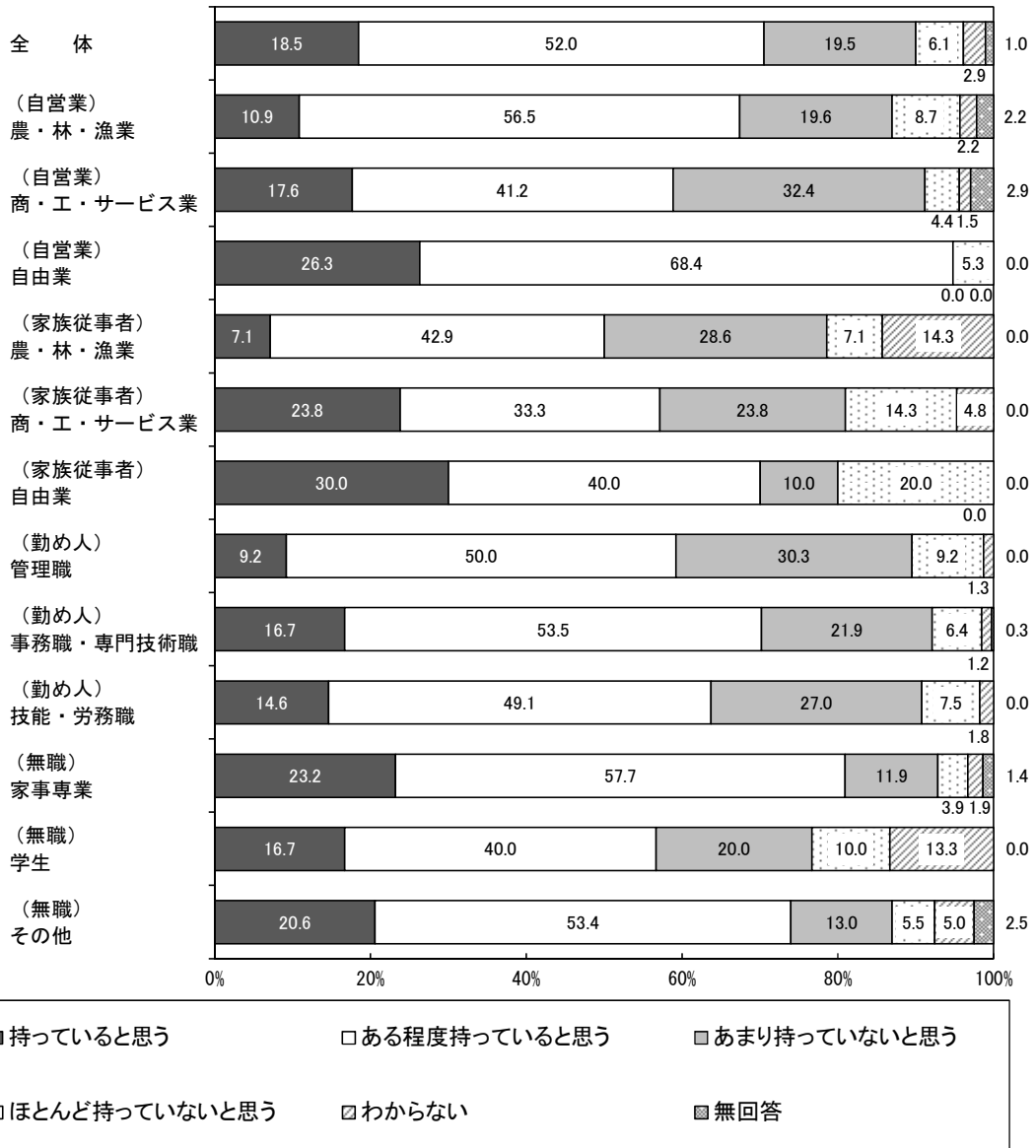
(人)

※ 地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 24.5 食の安全に関する知識を持っている程度（職業別）



全 体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,543	46	68	19	14	21	10

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
76	329	281	362	30	238	49

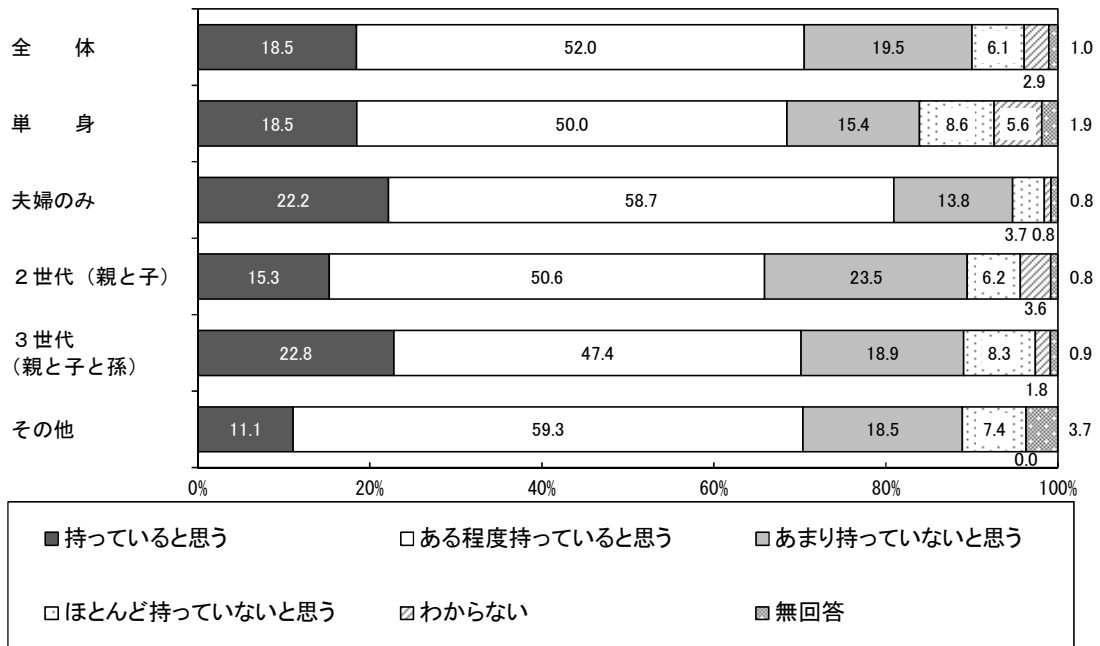
(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「持っていると思う」「ある程度持っていると思う」を合わせた割合は、夫婦のみ（80.9%）で高くなっている。

図 24.6 食の安全に関する知識を持っている程度（家族構成別）

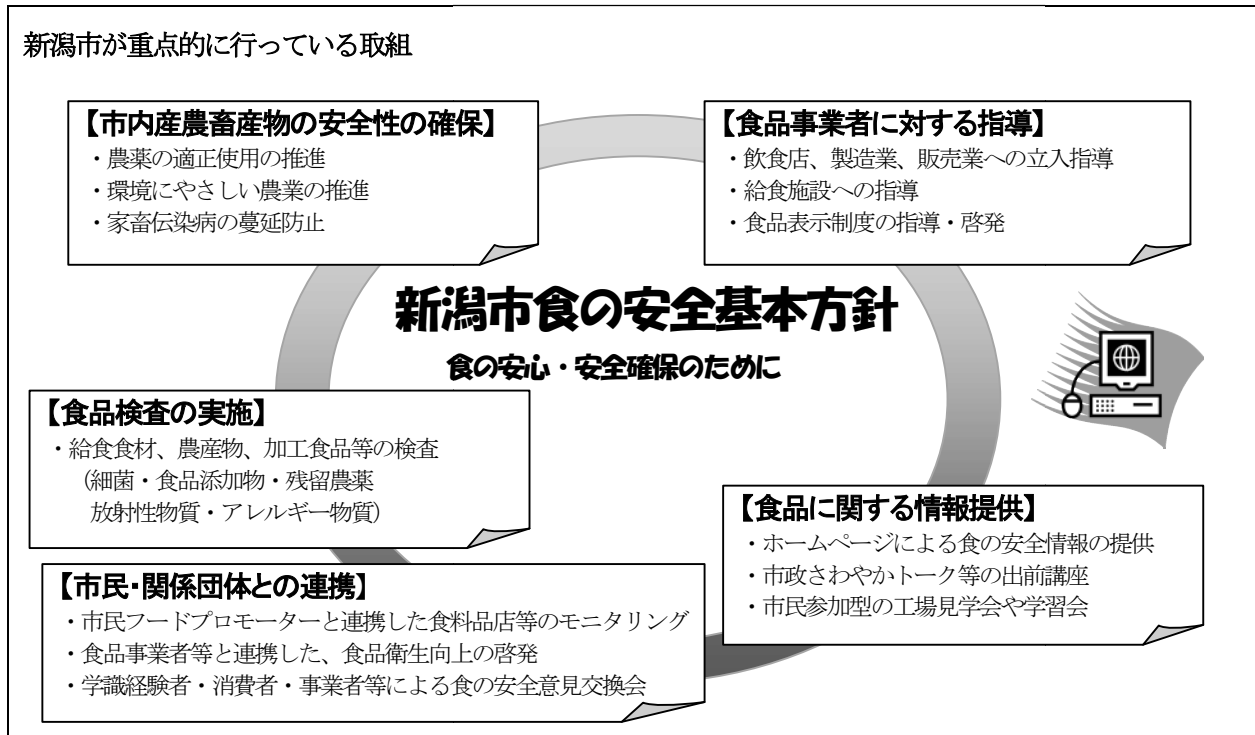


全体	単身	夫婦のみ	2世代（親と子）	3世代（親と子と孫）	その他	無回答
1,543	162	383	731	228	27	12

(人)

※ 無回答者のグラフは省略した

(3) 新潟市における食の安心・安全の確保に対する取組状況



問 22 新潟市では、「食の安全基本方針」に基づき、下記のような取組を重点的に行っているところです。あなたは、新潟市における食の安心・安全の確保に対する取組が、十分に行われていると感じていますか。一番近いものをお選びください。(○は1つだけ)

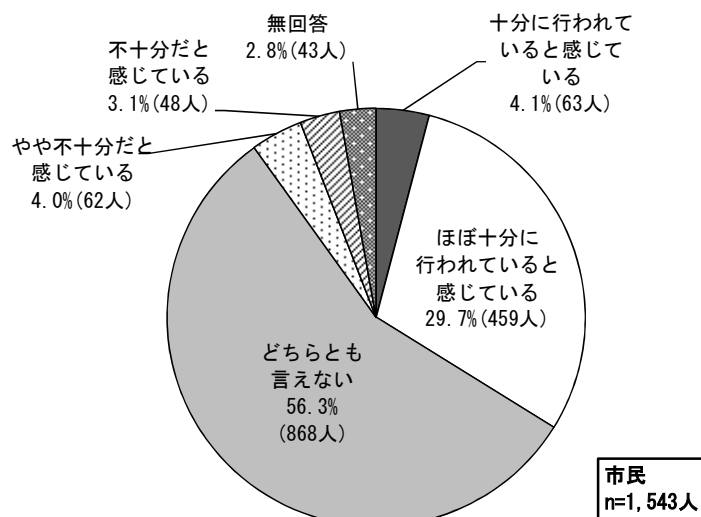
6割強が「どちらとも言えない」と回答

【全体結果】

「どちらとも言えない」(56.3%)と回答した人が6割弱で最も多くなっている。

「十分に行われていると感じている」「ほぼ十分に行われていると感じている」と回答した人を合わせた割合は3割強(33.8%)、「やや不十分だと感じている」「不十分だと感じている」と回答した人を合わせた割合は1割弱(7.1%)となっている。

図 21.1 新潟市における食の安心・安全の確保に対する取組状況



【性別・年齢別】

各年代で「どちらとも言えない」と回答した人が最も多く、20歳代(65.6%)で最も高く、70歳以上(49.4%)で最も低くなっている。「十分に行われていると感じている」「ほぼ十分に行われていると感じている」を合わせた割合は、70歳以上(39.4%)で最も高く、20歳代(25.6%)で最も低くなっている。

性別では、「十分に行われていると感じている」「ほぼ十分に行われていると感じている」を合わせた割合は、60歳代以下では女性の方が高く、70歳以上では男性の方が高くなっている。

図 21.2 新潟市における食の安心・安全の確保に対する取組状況（年齢別・全体）

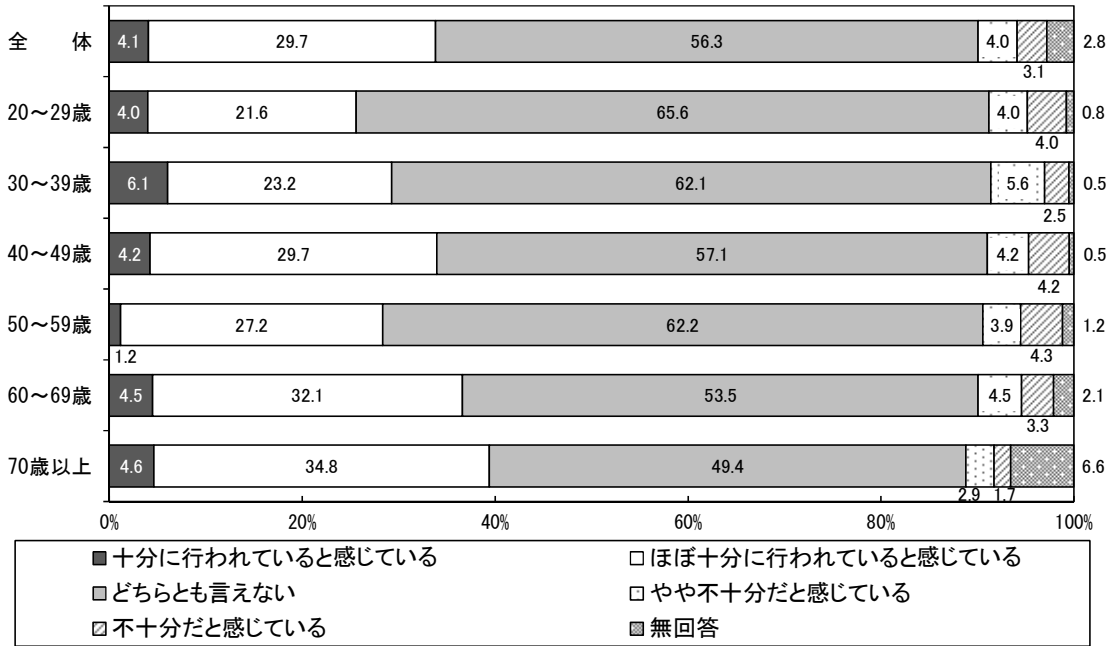
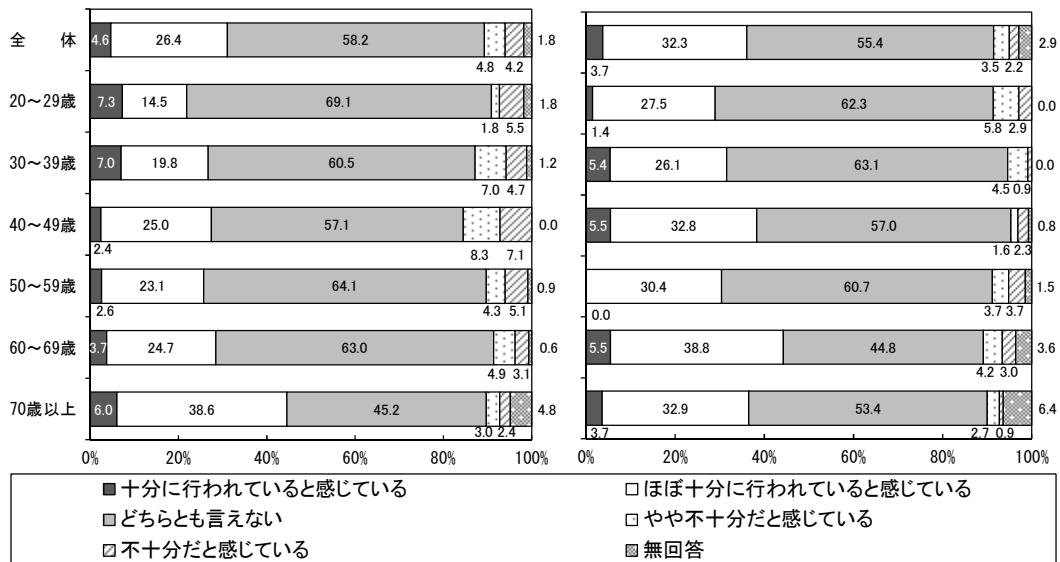


図 21.3 新潟市における食の安心・安全の確保に対する取組状況（年齢別・男性）



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,543	125	198	212	254	333	411	10
男性	670	55	86	84	117	162	166	0
女性	829	69	111	128	135	165	219	2

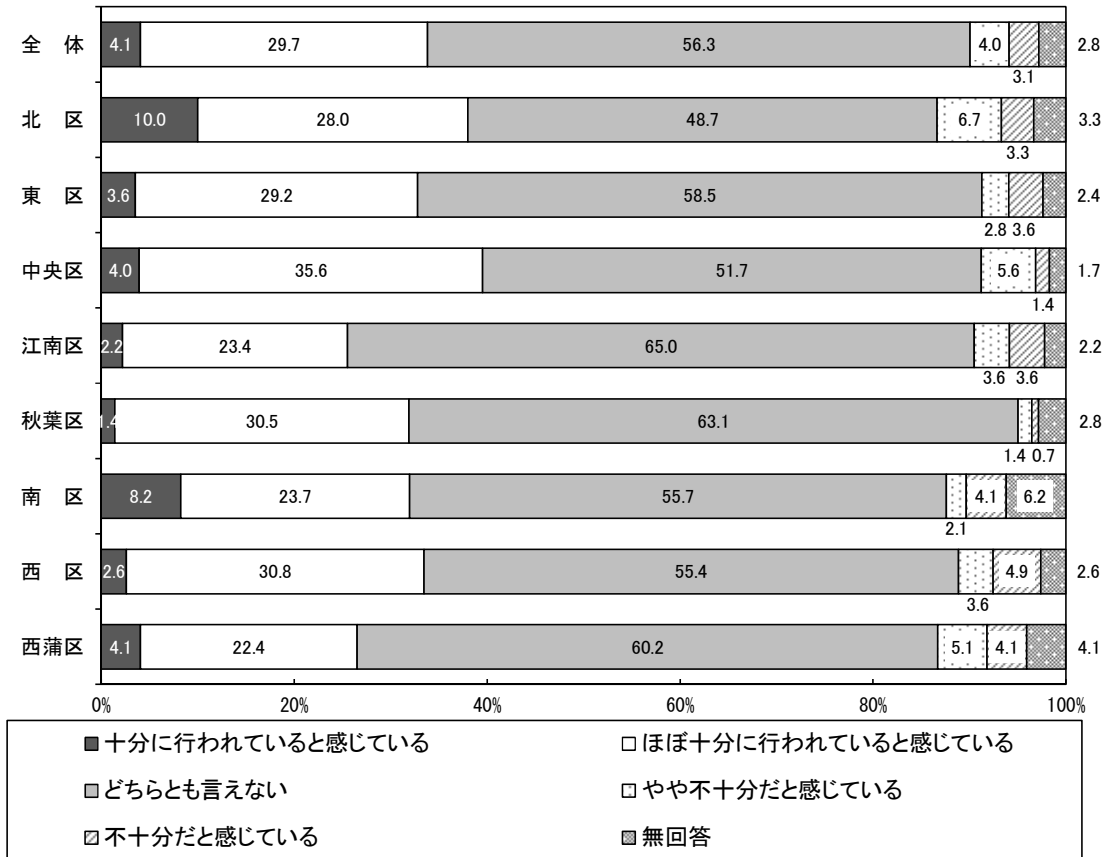
(人)

※ 性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「十分に行われていると感じている」「ほぼ十分に行われていると感じている」と回答した人を合わせた割合は、中央区 (39.6%)、北区 (38.0%)、西区 (33.4%) で比較的高く、一方、最も低いのは江南区 (25.6%) であった。

図 21.4 新潟市における食の安心・安全の確保に対する取組状況（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,543	150	253	354	137	141	97	305	98	8

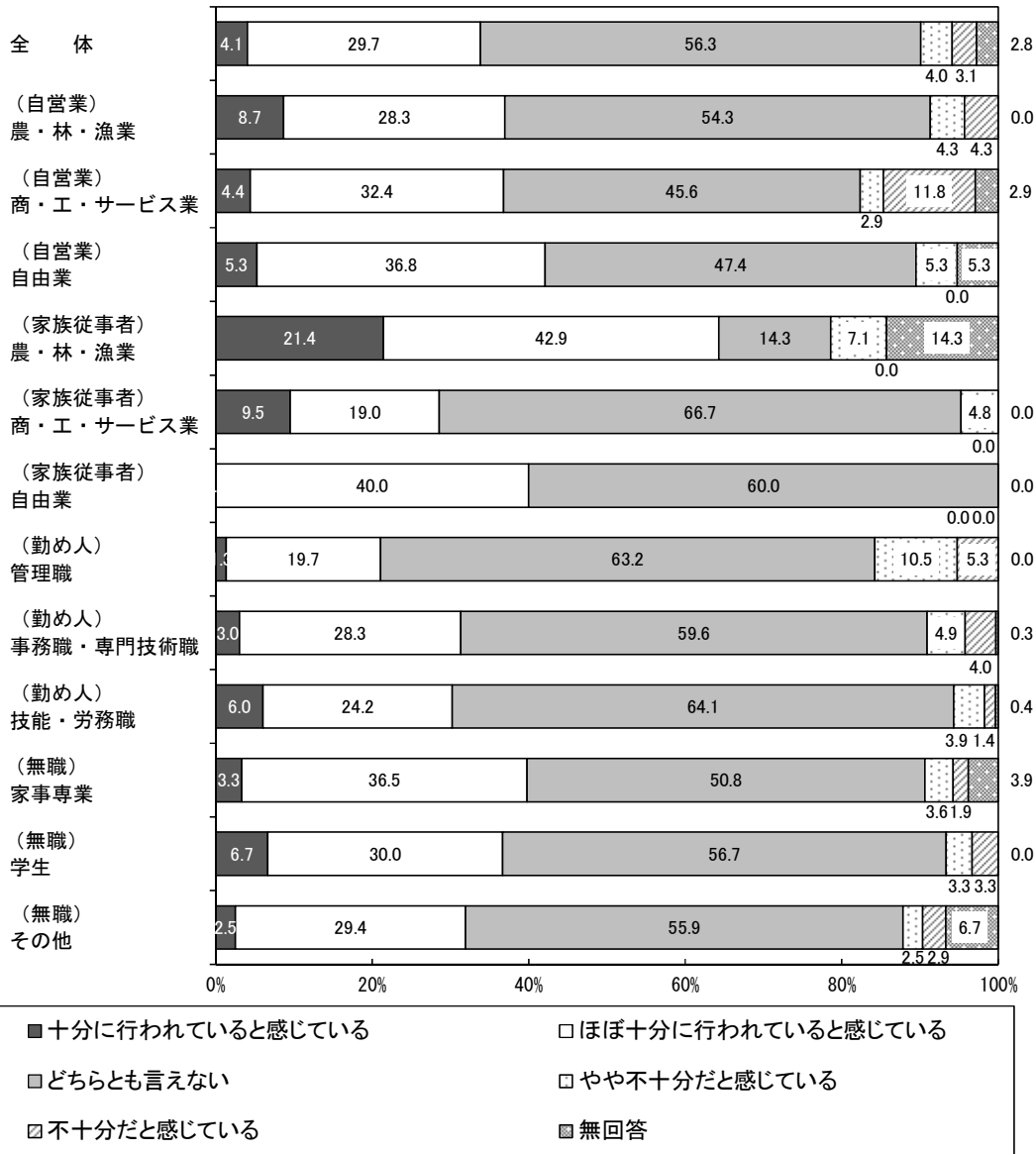
(人)

※ 地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 21.5 新潟市における食の安心・安全の確保に対する取組状況（職業別）



全 体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,543	46	68	19	14	21	10

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
76	329	281	362	30	238	49

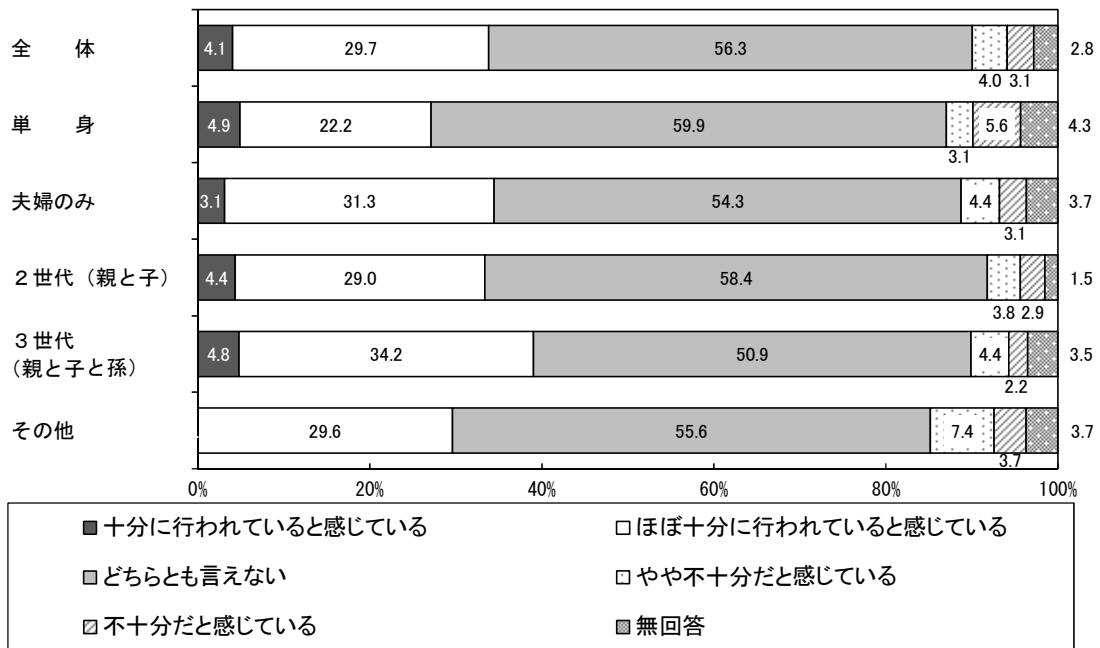
(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「十分に行われていると感じている」「ほぼ十分に行われていると感じている」と回答した人を合わせた割合は、3世代（親と子と孫）（39.0%）で最も高く、単身（27.1%）で最も低くなっている。

図 21.6 食の安全に関する知識を持っている程度（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代（親と子）	3世代（親と子と孫）	その他	無回答
1,543	162	383	731	228	27	12

(人)

※ 無回答者のグラフは省略した

(4) 特に不十分だと感じている取組

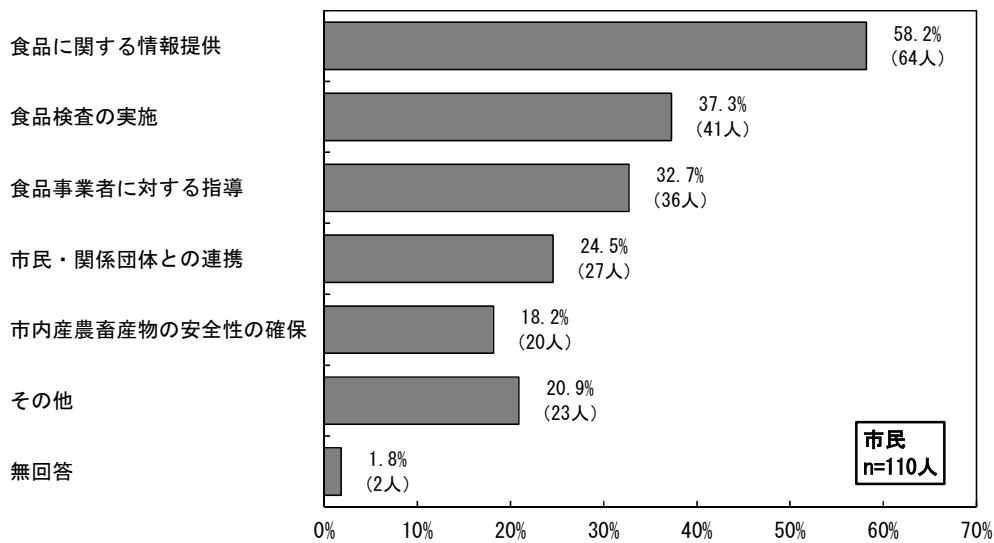
問 22 - 1 あなたが特に不十分だと感じている取組は何ですか。(〇は3つまで)
各取組内容についての詳細は上の図をご覧ください。

6割弱が「食品に関する情報提供」と回答

【全体結果】

特に不十分だと感じている取組については、「食品に関する情報提供」(58.2%)と回答した人が最も多く、「その他」を除き以下「食品検査の実施」(37.3%)、「食品事業者に対する指導」(32.7%)、「市民・関係団体との連携」(24.5%)、「市内産農畜産物の安全性の確保」(18.2%)となっている。

図 22.1 特に不十分だと感じている取組



【性別・年齢別】

30歳代以外の各年代で、「食品に関する情報提供」と回答した人の割合が最も高くなっている。30歳代では「食品事業者に対する指導」（43.8%）と回答した人の割合が最も高くなっている。

表 5.1 特に不十分だと感じている取組（年齢別・全体）

	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
対象者	110	10	16	18	21	26	19	0
市内産農畜産物の安全性の確保	18.2	20.0	12.5	11.1	33.3	15.4	15.8	0.0
食品事業者に対する指導	32.7	0.0	43.8	38.9	19.0	50.0	26.3	0.0
食品検査の実施	37.3	20.0	31.3	33.3	33.3	50.0	42.1	0.0
食品に関する情報提供	58.2	70.0	31.3	72.2	66.7	57.7	52.6	0.0
市民・関係団体との連携	24.5	20.0	25.0	22.2	28.6	19.2	31.6	0.0
その他	20.9	30.0	31.3	16.7	19.0	19.2	15.8	0.0
無回答	1.8	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.3	0.0

対象者：人／回答：%

表 5.2 特に不十分だと感じている取組（年齢別・男性）

	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
対象者	60	4	10	13	11	13	9	0
市内産農畜産物の安全性の確保	13.3	0.0	10.0	7.7	27.3	15.4	11.1	0.0
食品事業者に対する指導	36.7	0.0	50.0	46.2	18.2	53.8	22.2	0.0
食品検査の実施	38.3	0.0	40.0	38.5	27.3	53.8	44.4	0.0
食品に関する情報提供	56.7	75.0	20.0	61.5	63.6	69.2	55.6	0.0
市民・関係団体との連携	20.0	0.0	20.0	15.4	18.2	15.4	44.4	0.0
その他	23.3	25.0	30.0	15.4	27.3	23.1	22.2	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

対象者：人／回答：%

表 5.3 特に不十分だと感じている取組（年齢別・女性）

	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
対象者	47	6	6	5	10	12	8	0
市内産農畜産物の安全性の確保	23.4	33.3	16.7	20.0	40.0	16.7	12.5	0.0
食品事業者に対する指導	25.5	0.0	33.3	20.0	20.0	41.7	25.0	0.0
食品検査の実施	36.2	33.3	16.7	20.0	40.0	41.7	50.0	0.0
食品に関する情報提供	61.7	66.7	50.0	100.0	70.0	50.0	50.0	0.0
市民・関係団体との連携	29.8	33.3	33.3	40.0	40.0	16.7	25.0	0.0
その他	19.1	33.3	33.3	20.0	10.0	16.7	12.5	0.0
無回答	2.1	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

対象者：人／回答：%